気候情報

2014年７月の日本の天候

○北日本で気温がかなり高かった
○北日本と東日本太平洋側で日照時間が多かった
○台風第８号と梅雨前線による大雨

７月の天気概況

上旬は，台風第８号の影響で，沖縄本島地方では記録的な大雨となったほか，北日本から西日本にかけても局地的に大雨となり，各地で土砂災害や浸水害等が発生した．中旬は，東・西日本日本海側では曇りや雨となる日が多かった．19日から20日にかけては，寒気の影響により，広い範囲で雷雨が発生し，局地的に大雨となった．下旬は，梅雨前線の影響で，北海道を中心に大雨となったが，東・西日本や沖縄・奄美では，旬の中頃に猛暑日となった所が多かった．

月全体でみると，北日本と東日本太平洋側では，高気圧に覆われて晴れる日が多かったため，月間日照時間が多く，北日本太平洋側ではかなり多かった．また，北日本では暖かい空気が流れ込み，月を通して気温が平年を上回ったため，月平均気温がかなり高くなった．

上旬：５日頃にかけて，梅雨前線は本州の南海上に停滞し，東日本太平洋側や西日本では曇りや雨になり，西日本では気温が低く経過した．６日以降は大型で非常に強い台風第８号が北上し，８日に沖縄本島と宮古島の間を通過後，次第に勢力を弱めながら進路を東に変え，10日に鹿児島県阿久根市付近に上陸し，本州南岸を東進した．このため沖縄・奄美では，沖縄県名護市名護で８日から９日にかけての総降水量が457.5 mmになるなど，沖縄本島地方では記録的な大雨となった．また，北日本から西日本にかけて暖かく湿った空気が流れ込み，局地的な大雨となり，長野県では土石流による人的被害が発生したほか，新潟県と山形県では床上・床下浸水等が発生した．旬平均気温は，北日本と沖縄・奄美で高く，西日本で低かった．旬降水量は，沖縄・奄美でかなり多く，東・西日本で多かった．旬間日照時間は，北・東日本日本海側で多く，西日本と沖縄・奄美では少なかった．

中旬：台風第８号は11日に関東の東で温帯低気圧に変わった後，三陸沖を北東進した．15日頃からは，梅雨前線が日本海沿岸に停滞し，東・西日本日本海側では曇りや雨となる日が多かった．また，19日から20日にかけては，本州上空に強い寒気が流れ込み，東日本や西日本では局地的に猛烈な雨の降った所があった．奄美地方は13日頃，九州南部は16日頃，四国地方，中国地方は20日頃梅雨明けした（速報値）．北海道では晴れる日が多く，気温が高かった．旬平均気温は，北日本が高かった．旬降水量は，北日本日本海側でかなり少なく，東・西日本太平洋側で少なかった．旬間日照時間は，北日本と沖縄・奄美で多かった．

下旬：旬のはじめはおおむね晴れたが，23日から24日にかけては梅雨前線が南下し，北日本では曇りや雨となった所が多かった．25日から26日にかけては，全国的に気温が上がり，25日は187地点，26日は231地点（いずれも，アメダスを含む全国927地点中）で猛暑日となった．27日には台風第10号から変わった温帯低気圧により，北海道を中心に大雨となったが，その後は全国的に晴れた．九州北部地方，近畿地方，東海地方は21日頃，関東甲信地方は22日頃，北陸地方，東北地方は28日頃，それぞれ梅雨明けした（速報値）．沖縄・奄美では，22日から23日にかけて，台風第10号が先島諸島に接近し，八重山地方では大雨となった．また，31日にも台風第12号が沖縄地方へ接近し，沖縄・奄美や九州南部は大雨となった．旬平均気温は，北日本と西日本，沖縄・奄美で高かった．旬降水量は，北日本日本海側で多かった．一方，東日本太平洋側でかなり少なく，東日本日本海側と西日本では少なかった．旬間日照時間は，北・東日本太平洋側でかなり多く，北・東日本日本海側と西日本で多かった．

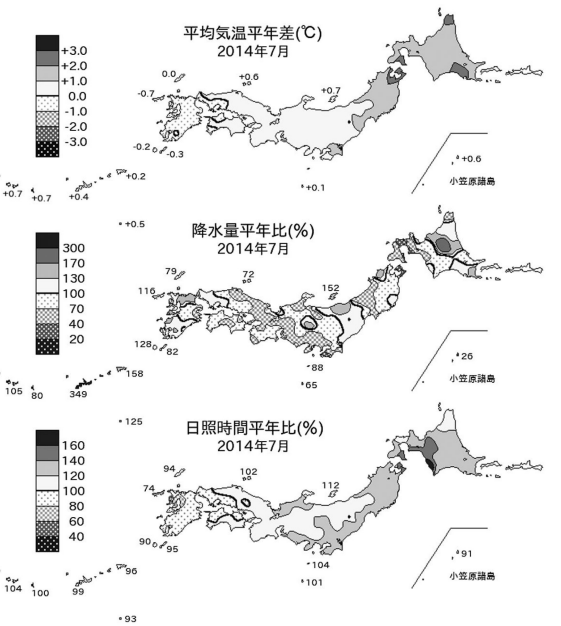
７月の気候統計

月平均気温：北日本でかなり高く，東日本と沖縄・奄美で高かった．

月降水量：沖縄・奄美で多かった．一方，東日本太平洋側では少なかった．

月間日照時間：北日本太平洋側でかなり多く，北日本日本海側と東日本太平洋側で多かった．

（気象庁観測部情報管理室）

７月の記録（１位更新なし）

2014年７月の平年差（比）図